



TITLE:

# 現代變革期に於ける日本國民經濟學の意義

AUTHOR(S):

石川, 興二

---

CITATION:

石川, 興二. 現代變革期に於ける日本國民經濟學の意義. 經濟論叢 1937, 45(1): 35-55

ISSUE DATE:

1937-07-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130978>

RIGHT:

# 京都市帝國大學經濟學會 經濟論叢

第四十五卷 第一號

昭和二十二年七月一日發行

## 論叢

人口政策に就いて……………文學博士 高田保馬  
農作物の收穫保險に就いて……………經濟學博士 八木芳之助  
現代變革期に於ける日本國民經濟學の意義……………經濟學博士 石川興二

## 時論

統制經濟と農山漁村對策……………經濟學博士 蛭川虎三

## 研究

ハロツドの景氣循環論……………經濟學士 飯田藤次  
普通銀行の支拂準備金……………經濟學士 上野淳一

## 說苑

安民主義的統制の必然……………經濟學士 大塚一朗  
取引税の一論據……………經濟學士 柏井象雄  
會計學に於ける財産及び資本……………經濟學士 尾上忠雄  
建築統計……………經濟學博士 沙見三郎

## 附錄

新着外國經濟雜誌主要論題

# 現代變革期に於ける日本國民經濟學の意義

石 川 興 二

凡そ變革期に處する態度は、これを三つに區別することが出来る。其一は特殊主義であり、其二は普遍主義であり、其三は個性主義である。

これを中世より現代への變革期について見んに、先づ特殊主義は支那について見られる。隣邦支那は數千年來の自己の文化を誇り自國を特殊視して自ら中國革域と稱し、他を夷狄視する自尊的態度を持したるが故に、新に歐米諸國と接觸するに至つても、これを蔑視しこれより新なる時代の精神を取り入れることに努めざりし結果没落に向はざるを得なかつたのである。このことはひとり支那のみならず、自國の歴史の特殊性のみを徒に高調し新なる時代の普遍的原理を洞察し攝取することの出来なかつた多くの國民は同様に衰亡に向はざるを得なかつたのである。而も今日の日本に於てもかゝる特殊主義が見られる。所謂右翼主義者が即ちそれであつて、彼等は日本の特殊性を高調するに急であつて徒に獨善主義自尊主義に陥り、新な時代の人類文化の原理を洞察し得ないのである。

次に普遍的立場について見んに、現代への變革期に於けるその例はこれを佛蘭西に見ることが出来る。即

ち一七八九年の佛蘭西革命はその國民の歴史性を無視して普遍主義に陥つた。イエリネツクはこの佛蘭西革命の非歴史主義、普遍主義を次の如くに明にして居る。即ち彼は、先づ佛蘭西大革命の人權宣言 *Déclaration des droits de l'homme et du citoyen* を米合衆國の權利章典 *Bills of rights* に對比せしめて曰く、「以上佛蘭西の人權宣言とアメリカの同じ宣言とを比較することに依つて、第一に氣の付くことは、抽象的の、隨つて又種々の意義に解せられ得る主義を列記して居ることに於いて、兩者共通であり、其全體の語調に於いても亦兩者甚しく近似して居ることである。フランス人は唯にアメリカの思想を採用したのみならず、其形式に於いても、亦洋の彼岸に行はれたものを繼承したのである。……此事實は、歴史家に取つて、フランスの宣言の効果を判斷する上に、少なからざる意義を有する。アメリカの諸國は、其の權利章典と共に、秩序ある政治團體として發展したのであつて、未だ嘗て其の正文が國家を破壊する結果に導いたことの非難が起つたことは無い。それであるから、フランスに於ても、人權宣言發布の後に起つた騷亂は、決して其の正文に其の原因を歸することの出来ないことは明瞭である。却つて此場合も外國制度の輕卒なる繼承が如何に危険であるかを示す一例證たるものである。即ちアメリカ人は古くから既に存在して居つた基礎の上に、一千七百七十六年に於いて、一展開を加へたに過ぎぬに反し、フランス人は之に依つて其國家基礎を根底より覆したのである。彼に在つては益々團結を堅くする經過中の一元子であつたものが、此に在つては益々國をして擾亂に陥らしむる原因となつた<sup>1)</sup>」と述べて居る。即ち個人的自由主義を新な時代の普遍的原理として取入れたことは正しいのであるが自國の歴史的特殊性を顧慮せず米國の模倣に於てこれを實現せんとせし佛蘭西はその歴史的存在を根底より破壊することにより大混亂に陥ることゝなつた。

1) イエリネツク『人權宣言論』(邦譯社會科學叢書第二十四編第四三頁以下参照)

その結果佛蘭西はこれまでの世界史的優位を失ひ再びこれを回復し得ざるに至つたのである。

デイルタイはこの佛蘭西革命を思想史的に次の如くに述べて居る。「佛蘭西に於ては、自然法、自然宗教、抽象的國家學並に抽象的な政治經濟學としての十七八世紀に發展せる社會理念の體系が、大革命に於て、その實際的な斷案を下した。<sup>1)</sup>」これ等の思想は當時の自然科學的意識に於て成立したものである。即ち「社會並に歴史の諸科學は久しく形而上學に仕へて居たのであるが、自然認識の高まり來れる力は、これ等諸科學に對し、舊きものに劣らざる新なる服従關係を齎らすこととなつた」<sup>2)</sup>かくてこれ等の思想は自然科學的普遍主義的非歴史的なものであつて、この思想の實現としての佛蘭西革命の性質を決定したのである。従つてこの普遍主義的非歴史的革命の影響は獨逸に於て、これに對し歴史主義的思想を勃興せしめた。經濟學史上の獨逸歴史學派もかくして起つたのである。即ちデイルタイがこゝに「抽象的な政治經濟學」と云へるものは云ふまでもなく重農主義經濟學であるがこの學派の建設者たるケネーは本來醫學者であつて後年に至つてはじめて經濟學の研究をはじめた人である。この彼の自然科學的教養の土臺に於てはじめて經濟の理論は學的體系を與へられたのであるが、これと共にそれは全く自然科學の理論を模範とし自然科學的意識に於て立てられたところのものである。即ち彼れの有名な *Tableau Economique* 經濟表は、人體に於て見られる血液循環の自然秩序又は法則にも相應すべき所のものを經濟社會に於ける循環の自然的秩序又は法則として發見したのである。従つてこゝに示めされるところのものは、人間の經濟生活の自然法であり本質的秩序であつて、人類の普遍的眞理として各國の歴史的特殊性を顧慮することなく、實現せらるべきところのものとなるのである。かくてこゝに非歴史主義的普遍主義的經濟學の基礎が置れたので

1) 2) Diltthey. Ges. Schrift. I. S. XV.

ある。ケネー並に彼を中心とする重農主義學派の人々の經濟論はこの經濟表を土臺として成立つたのであるが、かく明にされたる個人主義的自由を原理とする經濟社會の考は、人類社會の來るべき時代の原理を鮮明したるものとして極めて重要な意義を有するのであつて、佛蘭西經濟學の市民社會經濟學に對する不朽の功績である。

只だその缺點は、この新時代の原理の普遍性を高調するに急であつて、これを歴史的特殊性を異にする各國に於て攝取すべき仕方の相違を重んぜざる點に存する。これは特殊主義者が自國の歴史的特殊性にのみ執着し、人類史の新たな時代が實現すべき人類的普遍的原理なるものを認め得ざると、正に反對の誤謬に陥れるものである。

而も今日の日本に於てもかゝる普遍主義が見られる。所謂左翼主義者は即ちこれであつて彼等はマルキシズムの主張を以て普遍的な眞理となすことに急であつて我國の歴史的特殊性を輕んじ、これをそのままに我國に移入せんとしたのである。而も所謂右翼主義者も口には日本の特殊性を高調しながら眞の歴史的自覺を有せざる結果事實上に於ては獨逸、伊太利等の國家主義を模倣して自國の歴史性を無視する結果に陥りつゝあることは同様の誤謬を侵すものである。

次に個性主義について見んに、現代への變革期に於て、よくこれに處し得た國民は來るべき時代の普遍的原理を洞察し、これを自國の特殊性の自覺に基いて攝取したところのものであつた。その第一は英國であつて、アダム・スミスの經濟學はその代表的な表現である。彼は重農主義によつて明にされたる新なる時代の原理を英國民の立場に於て取入れたのである。即ち彼が新なる時代の實現すべき原理としたところの the system of natural liberty 「自然的自由の制度」はこれであつて彼はこれを英國の立場に於て實現せんとしたのである。即ちスミスは

國民を富ますことを以て彼の經濟學の目的としたのであるが、この爲めには、當時行はれて居たところの經濟に對する國家の干涉を止めて「自然的自由の制度」即ち「各人は正義の法を冒さざる限り、彼自身の仕方によつて彼自身の利益を追求することもまた彼の經濟的活動並に資本を他の人及び他の階級の人々のそれと競争にもたらし、とも完全に自由にまかされて居る」ところの制度を實現せんとしたのである。而もこれを實現すべき仕方については「偏頗又は抑制の總ての制度が完全に取り去らるゝならば明白單純なる自然的自由の制度は自ら確立する」として居るのである。<sup>1)</sup> 即ち早くより社會的な力が高まり來り、<sup>2)</sup> 王の封建的專制的支配を社會の力を以て次第に抑制し民主議を發展せしめ來れる英國に於けるアダム・スミスは、經濟に對する國家の時代錯誤的な無用な干涉を止て經濟的活動を社會に委かせ國內的に經濟的自由を許すと共に對外的に自由貿易を許すことが、この自然的自由の制度を實現する所以であるとしたのである。其後の英國の正統經濟學派はこの社會本位の立場に立つることによつて、英國民經濟の世界的發展に功獻すると共にまた今日の世界經濟の進歩に甚大なる功獻をしたのである。

この英國の發展の後より進み來つた獨逸もまた個性主義の立場をとつた。即ち獨逸は新なる時代の原理を英國と同様に、市民社會に於て見ながら而もこれに至るべき道を獨逸の特殊性に於て見たのである。經濟學史上に於けるその第一の表現はリストである。即ちリストは一八四〇年に *Das nationale System der Politischen Oekonomie* 『政治經濟學の體系』を現らはして、先進國英國の至れる處を以て理想となし而もこれに到達する道を獨逸の特殊性に基いて明にした。これと共にスミス等の英國正統學派が一見普遍主義の立場に立つがの如くにして實は英國

1) 拙著『精神科學的經濟學の基礎問題』第二四九頁參照。

2) 同書第三〇八頁以下參照。

の特殊性に基けるものなることを明にしたのである。即ち彼は國民經濟が完成に至る主たる發達過程を野蠻狀態、牧畜狀態、農業狀態、農工狀態、農工商狀態となした。かくて彼が國民經濟發展の到達點と考へたところのものは、重農主義並にスミスによつて明にされたる新時代の普遍的原理と同様である。而も獨逸がこの農工商狀態に進み入るが爲めには、スミス等の高調するところの自由貿易を以てすることは出来ない。「英吉利の如きその工業が總ての他の諸國民よりも遙に躍進した國民は、その工業的並に商業的優越權を、出来るだけ自由なる貿易によつて保持し擴大する。……進歩的な英吉利經濟學者達が貿易の絶對的自由を特に好む、と云ふことは、このことから理解される。」<sup>1)</sup>然るに後進國たる獨逸にとつては、農業狀態より工業狀態への移行を完成する爲めには、それ自身に於て手段を求めなければならない。これ即ち關稅制度であつて、先進國との貿易を關稅制度によつて制限しなければならないとするのである。

かくてリストは、スミスが經濟的進歩の一般的な道であるかの如くに主張したところの自由貿易が、實は英吉利の國狀に即するものであることを明にすると共に、獨逸の進むべき道を明にした。即ちスミスが經濟的進歩を社會の自由なる活動力に期待したるに對して、國家權力の發動に期待したのである。而もこのことは、リストの主張するが如くに經濟的進歩の先進國と後進國との相違にのみ依存するものではなく、更に根本的に兩國國民の生の構造の相違に求められなければならない。即ち英國國民史と獨逸國民史とを對比するならば先づその國民性について彼は理智的、打算的性格に於てこれは意志的性格に於て秀れて居る。従つてまた彼にあつては社會的な力がこれにあつては國家的な力が秀れて居るのである。これを政治上より見るも、英國に於ては、社會の力が次第に

1) List, Das nationale System der Politischen Ökonomie. (Sammlung sozialwissenschaftlicher Meister. III. S. 73)



封建的國家の君權力を抑制することによつて、中世より現代へと進展し來れるに對し、獨逸に於ては、封建的國家の君主が國民を現代的方向へ指導し來つたのである。リストの經濟學はこの獨逸的な立場の經濟學的表現であると言ふことが出来る。即ち來るべき時代の普遍的原理としての市民主義經濟を是認し、而もこれに至るべき道として自由貿易が一般に考へられて居た當時に於て國家權力を重んずることによつて獨逸的な道を自覺に高めたと云ふことが出来るのである。故にこゝに見られたるリスト經濟學のスマス經濟學に對する對照はそれ以後の獨逸國民經濟學の英國國民經濟學に對する對照に於て見られるところであつて、後者に於ては常に社會的、國家的な力が第一に重んぜられて居るに對して、前者に於ては國家的な力が重んぜられて居る。即ちヒルデブラント、ロッシヤ、クニース等の舊歴史學派の人々も、同様に國家權力の働を重んじこれを待つて統一的なる獨逸國民經濟を將來せんとしたのである。かくて將來されたる獨逸國民經濟が資本主義社會として有產者と無產者とに分裂し崩解し行かんとするに對して、ワグナー、シュモラー等の新歴史學派の人々は、國家權力の働を重んじその働を待つて中産階級を維持することによりてこの分裂崩解を防止し以て資本主義社會を保持せんと計つたのである。

明治維新の日本もまた個性主義的立場に立つたのである。即ちそれは新時代の普遍的原理を洞察し、これを日本の特殊性の自覺に基いて攝取し、この個性的立場に立つて、封建時代より現代への變革期に處したのである。而してこの變革の國民的指導原理としての代表的表現は、五箇條御誓文とその御宸翰であつた<sup>1)</sup>。今この中に時代の普遍的原理が日本の特殊の立場に於て如何に取り入れられたかについて考察しよう。先づ御誓文の成立過程を見ると、新時代の人類の普遍的原理に對するその關係が明にされるのである。

1) 拙稿『維新の詔と變革の國是』本誌本年五月號參照

御誓文の最初の草案者は由利公正であつたが、彼は横井小楠に私淑しその『國是三論』を手本として、これを草案したのである。この横井小楠はその傳に、「先生既に粗宇内形勢の實況を察知す。曰く天地の氣運萬國の大勢は人爲を以て私す可らざるなりと。蓋し其識見の發する宇内の眞理公道と天下の大勢上とに因て斷然開國の論を唱ふるものなり。是より門人交友の中鎖攘に拘泥して往々分離する者有り先生顧みず<sup>1)</sup>」と記されてあるが如く、彼は既に來るべき時代の原理をよく洞察して居たのである。『國是三論』は、この立場に立つて新國是<sup>2)</sup>を書いたものである。それは富國論強兵論士道論より成る。彼はこの中に米英佛の實狀を述ることにより新時代の原理を次の如くに明にして居る。「墨利堅に於ては華盛頓以來三大規模を立て、一は天地間の慘毒殺戮に超へたるはなき故天意に則て宇内の戦争を息るを以て務となし、一は知識を世界萬國に取て治教を裨益するを務とし、一は全國の大統領の權柄賢に讓て子に傳へず君臣の義を廢して一向公共和平を以て務とし政法治術其他百般の技藝器械等に至るまで凡地球上善美と稱する者は悉く取りて吾有となし大に好生<sup>3)</sup>の仁風を揚げ。英吉利に有つては、政體一に民情に本づき官の行ふ處は大小となく必悉民に議り、其便とする處に隨て其好まざる處を強ひず出戎出好も亦然り仍之魯と戦ひ清と戦ふ兵革數年死傷無數計費幾萬に皆是を民に取れども一人の怨嗟あることなし。其他俄羅斯を初各國多くは文武の學校は勿論病院幼院啞聾院等を設け政教悉く倫理によつて生民の爲にするに急ならざるはなく、殆三代の治教に符合するに至る。如此諸國來て日本の鎖鑰を開くに公共の道を以てする時は日本猶鎖國の舊見を執り私營の政を務めて交易の理を知り得ずんば愚といはずして何ぞや<sup>3)</sup>」と述べて居る。かくて小楠は、歐米の民主義に於て新時代の原理を見これを土臺として『國是三論』を書いたのであるが、由利公正は、この『國是

1) 横井時雄編、『小楠遺稿』第十一頁

2) 越前の爲めに國是を定めたのである。同書第十四頁參照。

3) 同書、第六十一頁以下參照。付點筆者

三論』を手本としこの思想を受けて、御誓文の草案を書いたのである。かくて小楠の民主々義思想を受けた彼はその第一項に「一、庶民志を遂げ人心をして倦まざらしむるを欲す」とした。彼はこのことを以て政治の第一義となしその著『英雄論』に於ても「庶民をして各志を遂げ人心をして倦まざらしむべし」とは治國の要道であつて古今東西の善政は悉く皆この一言に歸着するのである」と述べて居る。また當時政府の財政を掌れる彼は第二項に「一、士民心を一にして盛に經綸を行ふを要す」とした。こゝに經綸と云へるは『國是三論』に於けると同じく經濟を意味する。第三項以下に於ては「一、知識を世界に求め廣く皇基を振起すべし」「一、貢士期限を以て賢才に讓るべし」「一、萬機公論に決し私に論するなかれ」としたのである。この草案を土臺となし、これを更に福岡孝弟、木戸孝允が修正することによつて御誓文が成立したのである。

この御誓文の成立過程より見るも、そこに新な時代の世界的原理の取入れられたことが明にされるが、これと共にまたこの御誓文と不可分離的な關係に於てある御宸翰にも、同様に時代の普遍的原理が取入れられて居るのである。即ち御誓文と御宸翰とは一體として理解さるべきものであつて前者が國是としての根本方策を示めすに對し後者はこれを基礎付ける意味を有して居るのであるが、そこには前者の基礎たるべき人生觀としての人間觀、社會觀、歴史觀が見られるのである。次にこの新なる時代の普遍的原理が、如何様にこの御宸翰に取り入れられて居るかを明にしよう。

先づ御宸翰に於ては人間を以て國家的權力の手段となし據らしむべし知らしむ可らずとした封建的人間觀と全く異なり、「天下億兆一人も其處を得ざる時は皆朕が罪なれば」と仰せられこゝに新な人間觀が示めされて居る。

即ちこゝに新時代の原理が人間尊重の精神として取入れられてあるのであつて、これが御宸翰並に御誓文の基調を爲して居るのである。然しこゝに大切なことは、この新時代の原理が只だ一般的普遍的に取り入れられなかつたことである。若しこの新時代の原理が單に民主主義的思想としてまた天賦人權の思想として取入れられたならばそれは佛蘭西に於けるが如き社會的革命的な思想とも成り得たのである。然るにかくの如き單なる普遍的な形を以て取り入れられず、我國の歴史的特殊的立場に於て取入れられ我國の個性的原理となつたのである。このことは御宸翰に於ける社會觀、歴史觀に於て一層明にされる。

即ち次に社會觀について見んに、そこには天皇を「億兆の父母」となし民をその「赤子」となし「君臣相親しみ上下相愛」するところの國民共同體<sup>1)</sup>としての存在を以て、本質的な有方であるとされて居る。而してその歴史觀に於ては、「往昔」に於ては「君臣相親しみて上下相愛し、德澤天下に洽く」あつた狀態が存在して居るのであるが、中世に至つてこの狀態が變化し、「中葉朝政衰へてより、武家權を専らにし、表には朝廷を推尊して、實は敬して是を遠ざけ、億兆の父母として絶えて赤子の情を知ること能はざる様計り成し、遂に億兆の君たるも、唯だ名のみになり果て、其が爲め今日朝廷の尊重は、古に倍せしが如くにて、朝威は倍衰へ、上下相離ること霽壤の如し。」と仰せられ居る。

かくて以上の人間觀と社會觀と歴史觀との上に、維新の變革の實踐的立場が打立てられるのである。即ち「武家權を専らに」するこの狀態を打破し「君民相親しみて上下相愛」する國民共同體が實現されねばならぬのである。かくて「今般朝政一新の時に膺り天下億兆一人も其の處を得ざる時は、皆朕が罪なれば、今日の事、朕自身骨を

1) 拙稿『新國民主義と國民共同體』本誌本年一月號參照。

勞し心志を苦しめ、艱難の先に立ち、古列祖の盡させ給ひし蹤を履み、治績を勤めてこそ、始めて天職を奉じ億兆の君たる所に背かざるべし。」と仰せられて居る。

かくて御宸翰に於ては、この新なる時代の原理としての民主的自由主義が、我國固有の國民共同體思想の中に止揚され、君の民に對する關係に於て「億兆の父母」たる君が「赤子」たる民を愛する精神を徹底せしむるものとして、固有の共同體思想に新な時代の意義を與へるところの契機となつて居るである。かくて古代よりの國民共同體の立場は、新に外國より取り入れたる民主的自由主義的思想によつて新な時代の原理となり、この新な時代原理の力によつて、「武家權を専らに」するところの封建的立場が否定されることとなつたのである。

この御宸翰に於ける國民共同體の思想に基礎付けられて御誓文には、この實踐的變革の爲めに行はるべき根本方策が五箇條に示めされて居るのである。「一、廣く會議ヲ起シ萬機公論ニ決スヘシ」と云ふことは政治の原理であり、「一、上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フヘシ」と云ふことはこの國民共同體の經濟の原理である。かくして「一、官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マサラシメン事ヲ要ス」るのであつてこれこの國民共同體に於ける生活の實現である。而してこれが爲めに過去に對しては「一、舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ」また對外的には「一、知識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ」と云ふことを要するのである。

この維新の變革の精神は、既に慶應三年十月九日の維新の大號令に於て現れて居る。即ちそこには「緒紳堂上、地下之無別至當之公議ヲ竭シ天下ト休戚ヲ同被遊叡慮ニ付」とありまた「不拘貴賤無忌憚可致獻言且人材登庸第一之御急務ニ候故心當之仁有之候者早々可有言上候事」とあり、更に「近年物價格別騰貴如何共不可爲富者ハ益富ヲ

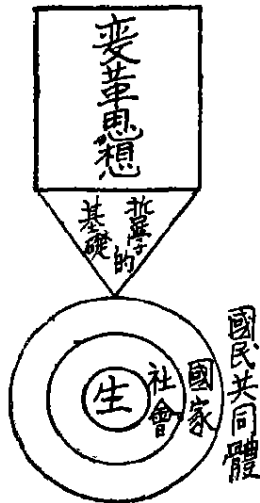
1) この原理を發展せしむるならば、封建時代に於けると異なれる新なる經濟思想體系が展開することとなる。前述せし如くこの經綸は經濟を意味する。(第九頁參照)

累、貧、者、ハ、益、窘、急、ニ、至、リ、候、趣、畢、竟、政、令、不、正、ヨ、リ、所、致、民、ハ、王、者、ノ、大、寶、百、事、御、一、新、之、折、柄、旁、被、惱、宸、衷、候、<sup>1)</sup>とある。即ちこゝにも新な時代の原理が天皇を中心とする國民共同體の立場に於て既に見られるのである。ことに「民ハ王者ノ大寶」とあるは、封建思想と全く異なるところの新たな時代の根本思想である。

かくの如き維新の變革の精神の根柢たるべき變革の特殊の構造はこの大號令の冒頭に於て示めされて居る。即ち「徳川内府従前御委任大政返上將軍職辭退之兩條今斷然被聞食候」とあるが即ちそれである。これは封建國家の權力的首長として將軍に相當する Kaiser 皇帝を指導者とする獨逸の國家的變革とも、また將軍に相當する King 王を社會の力が抑制することによつて進んで來た英國の社會的變革とも異なり、封建時代の國家權力の擔當者たる將軍よりその政權が一度國民共同體の中心たる天皇に奉還されこの天皇を中心とする國民的變革である。我國の變革はかくの如き國民的變革なるが故にその精神が上述せし如き國民共同體的なものとなつたのである。

## 二

以上明にしたがる如く、現代への變革期に於て、英吉利、獨逸、日本は各々個性主義的立場に立つてこれに處

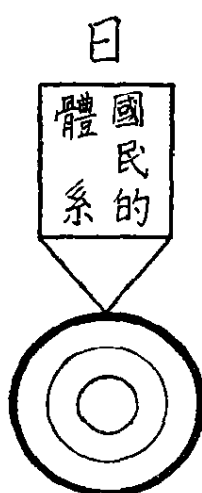
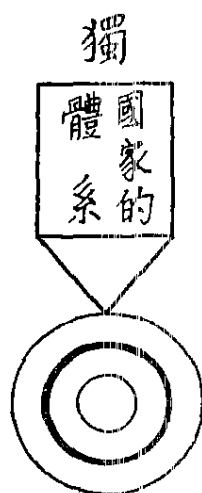
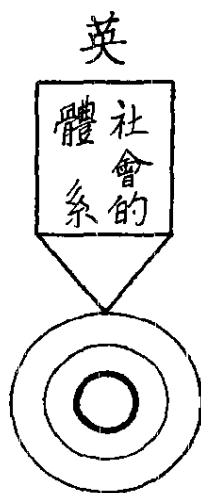


したのである。個性主義的立場は時代の普遍的原理をその國民の生の特殊性の自覺に基いて擷取するものなるが故に、これ等の立場に於て成立つ變革思想は個性主義的と云ふ點に於ては一樣であるが、而も各々の國民について異なるのである。この相違は各の國民の生の本質的構造の相違に基くものなるが故に、各の國民の生の本質的構造より理

1) 以上付點筆者、

解されるべきものである。

即ち國民的存在に於ては、前掲圖に於けるが如く、社會面と國家面と共同體面とが區別し得られる。<sup>1)</sup> 社會面に於ては人々が理智に基き利益を原理となしこの利益の交換關係によつて結ばれて居り、國家面に於ては人々が



くて各々がその本質的構造に即する個性的立場に立つことによりよくこれに處し得たのである。(上圖參照)

即ちこれを日本の國民史について見るに、國家と社會とは時代によつて變つて行つたのであるが、この變化を

現代變革期に於ける日本國民經濟學の意義

第四十五卷 四七 第一號 四七

1) 3) 拙稿『國民生命史觀の諸問題』本誌本年四月號參照  
2) 拙稿『新國民主義と國民共同體』本誌本年一月號參照

通じて天皇を中心とする我國民共同體は、一貫して變らなかつたのであつて、かくて我國民的存在に於ては國民共同體が特に鞏固なのである。従つて、單に明治維新に於てのみならず、我國史上に於ける變革に於ては、國民共同體的構造が特に強く現れて居る。即ち個人についての如く、國民についてもその性格は非常時に於て特に明に見られるものであるが、先づ大化の改新に於ては、唐の統一的國家制度が、我國の本來の共同體の立場に於て取入れられ、こゝに我國の國民共同體がはじめて成立したのである。即ち諸の氏族團體によつて私有されて居た人民と土地とはこゝに王土王民となり、全國民を一體とする班田收授の法が成立つた。而して唐に於ては國家主義の立場に於て徵稅本位に考へられた班田收授の法が、我國に於ては、我國本來の農村共同體の精神に基いて、國民の生活本位に修正されて居るのである。即ち大化改新の班田收授の法に於ては、人生れて六歳に達すれば、男子には田二段を、女子にはその二分の二を終生に亘つて給する。かくて専ら各戸の現口數を標準とし民の生活の必要に應じて田を給したのであつて、唐制とは異なり人頭課稅たる調庸の負擔と直接の關係がなかつたことが特色である。<sup>1)</sup>

かくて大化改新に於てはじめて、皇室を中心とする國民共同體が成立したのであるが、その後この國民共同體は我國民史を一貫して變らなかつたのである。即ち古代より中世への變革に於ては、この國民共同體の中心たる天皇より政權が分化して武將たる將軍に委任され封建的國家が成立つたのである。然しこの封建的國家の土臺に於ては、天皇を中心とする國民共同體が存続したのであつて、將軍と雖もこの國民共同體自體を變革することは本來なかつたのである。而もこの封建的國家の存在が國民共同體の發展と矛盾に陷つて、國民共同體の立場に於

1) 内田銀藏著『日本經濟史研究』上卷參照



て否定されるに至つたところのものが即ち明治維新である。故に明治維新の變革は、將軍がその政權を國民共同體の中心としての天皇に奉還し、天皇を中心とする國民共同體の思想に於て、新なる時代の原理を攝取することによつてなされたのである。かくて順調なる變革が遂げられ大化改新によつて成立せし國民共同體は、幾多の困難に當面しながら、こゝに對內的並に對外的にその存立を確保され得たのである。而して今日までの發展に於ては、かくて取入れられたる新なる時代の原理たる個人的自由主義が我國に於ても資本主義社會を發展せしめ、國民共同體の具體的實現を物的並に人的に準備したのである。而も今やこの資本主義制度はその下に於て各國民がその發展を續け得ざるところのものとなりこゝに各國民は現代變革期に當面することゝなつたのである。

### 三

以上に於て、變革期に於ては新なる時代精神を自己の國民性格の立場より攝取することにより新時代に對して最も有意義に活動しなければならないことを知ると共にまた日本の國民的性格を知つたのである。かくて我日本は現代の變革期に當つても、この國民性格の立場より新なる時代精神を攝取しこれに基いて最も有意義な活動をしなければならぬのである。然らば來るべき時代の新たな原理は何であるか。先づこのことについて考察しなければならぬ。

凡そ新たな時代精神を洞察すると云ふことは、容易ならざることであつて、これを洞察し得るものは時代の英雄である。ヘーゲルがその歴史哲學に於て「世界史的人間」又は「英雄」と云へるものは正にこれである。即ち彼等は何か必要であり而して爲さるべき時期に達してゐるかについて洞察をもつてゐる。これが正に彼等の時代並に世

界の眞理 *die Wahrheit ihrer Zeit und ihrer Welt* である。彼等はこれを知りこれを自己の目的としこれにその全精神を傾注し、激情 *Leidenschaft* を以てその實現に當るのである。これ等の英雄は、他の個々人の内的な心であるが而も無自覺的な内面性であるところのものを個々人に自覺に齎らすのである。それ故に他の人々は内的な精神の抗し難き力を感じてこの心の案内者に隨ふのである、と述べて居る。前述せし五箇條御誓文の最初の起草者である由利公正も『英雄論』に於て次の如くに述べて居る。<sup>1)</sup>「英雄偉人の言行といふものは、尋常修飾者の眼から見れば、粗末不整頓な廉のあることを免れない。然れども暗遷點移する大勢を看取し一旦機熟すと視れば則ち蹶然起つて大經綸を策し範を一代に示めし則を百世に垂れるのである。」「大勢が既に定まつて又動かすことの出来ぬやうになり小兒をして有司の席に就かせても差支の無い時分が來れば曩の改革家は忘れられて仕舞ふて當時偶然好位地を占めたものが僥倖の名を得るのである。乍併器量大に識見高き改革家が天意人心の契合を介するに當つては因より人生の名利などといふものをば其念頭に浮べないのであつて何人の名を以て行はれても將又何の時に行はれても彼に於ては更に關する所でない。」<sup>2)</sup>と述べて居る。

然らば現代の變革期に對して來るべき時代の原理を最初に洞察したかくの如き英雄は何人であらうか。經濟學史上に於て先づ注意しなければならないのは現代の市民社會の分析の中にその變革の原理を明にせんとせしマルクスである。即ち彼はそこに於て總ての人々が「それ自身目的としての人間的能力の發展」*die menschliche Kraft-entwicklung, die sich als Selbstzweck gilt.*<sup>3)</sup>をなし得るところの「人間的社會又は社會的人類」*die menschliche Gesellschaft oder die gesellschaftliche Menschheit* を以て新な時代の原理としたのである。彼はこの人間的社會の

1) 拙稿『ヘーゲル史觀の實踐的構造』本誌第三十六卷第五頁第四三頁參照

2) 由利公正傳第三七八頁以下參照

3) Marx, Das Kapital. III. 2. (Von Engels. S. 355)

立場に立つて市民社會を變革せんとしたのであつて、これまでの哲學は世界を種々に解釋した、然るに世界を變革することが肝要である」と述べて居る。而も彼は來るべき時代を人間的社會、*Gesellschaft* としてまた社會的、*gesellschaftliche* 人類として社會的に規定して居る。即ち彼は市民社會に於ける有産者無産者の階級的分裂を否定せし社會を以て來るべき時代の原理としたのである。この彼の思想に於ける偏社會的傾向を我々はこの思想がそれに於て成立せる生的基礎より理解することが出来る。即ちこれを彼の血より見ればそれは彼自らが資本主義的精神をユダヤ精神と呼んだそのユダヤ人の血である。またその時代より見れば彼の根本思想は既に十九世紀の半前後に成立したのであつてそれは資本主義社會が尙ほ隆盛期にあつた。その成立せし場所より見れば資本主義的世界構造の中心たるロンドンに於て大成したのである。マルクスの思想を成立せしめたこの血と時と所とは、彼をしてよく資本主義社會の本質的構造を把握せしむるに適當したところのものであると共にまた彼の思想を社會的に偏せしめたのである。

彼マルクスは、眞理を實踐を以て論證すべきものであるとして居るが、このマルクス思想の偏社會的傾向は今や實踐を通して修正せられつゝある。即ちマルクスの資本論の出でより正に五十年である一九一七年にこの思想はレーニンによつてロシアに於て實行に移されたのであるが、それは程なくロシアを窮地に陥れることとなり、一度新經濟政策を以て資本主義的方向に後退せしめられることとなつた。而もかくて再び資本主義的弊害が増大し來つたが故にこれを何時までもそのまゝにして置くことは出来ないものであつて、何とかしなければならなかつた。レーニンの死後彼と共にロシア革命を行ふた革命の元勳であり正統マルキシズムの世界革命の立場に立つトロツキーと一國社會主義の立場を主張するスターリンとは對立關係に立つたのであるがこの對立はこゝに益々激

1) Marx, These über Feuerbach

2) 資本論第一卷は1867年に出版された。

3) Marx, These über Feuerbach. 2. In der Praxis muss der Mensch die Wahrheit, i. e. Wirklichkeit und Macht, Diesseitigkeit seines Denkens beweisen.

化し來り遂に一九二八年スターリンはトロツキーを放逐し一國社會主義の立場に於て五ヶ年計畫を強行したのである。其後更に第二五ヶ年計畫が進められロシヤは着々その建設の歩武を進めて居るのであるが、スターリンはこの一國社會主義の立場より國內に於ける諸地方の文化の個性を重じ更に隣接諸民族の個性を尊重する方策をとつて居るのである。<sup>1)</sup>こゝに國民單位なるものを輕視せしマルクスの「社會的人類」の理想は、實踐を通して重大なる修正を受けつゝあるのである。即ち青年マルクスは尙ほ人間的存在の國民單位を考慮したに拘らず、コスモポリタンとなつた後年のマルクスは來るべき時代の原理として萬民社會を考へ國民單位を輕視したのであるが、<sup>2)</sup>この國民單位なるものは特殊的な自然的基礎の上に幾千年の歴史的規定性より成るところの人間的存在の具體的單位であるが故にこれを輕視する理論は抽象的と云はざるを得ない。かくて現代ロシヤの變革に於てこの點に於けるマルクス理論の抽象性の修正さるべき方向が示めされて居るのである。

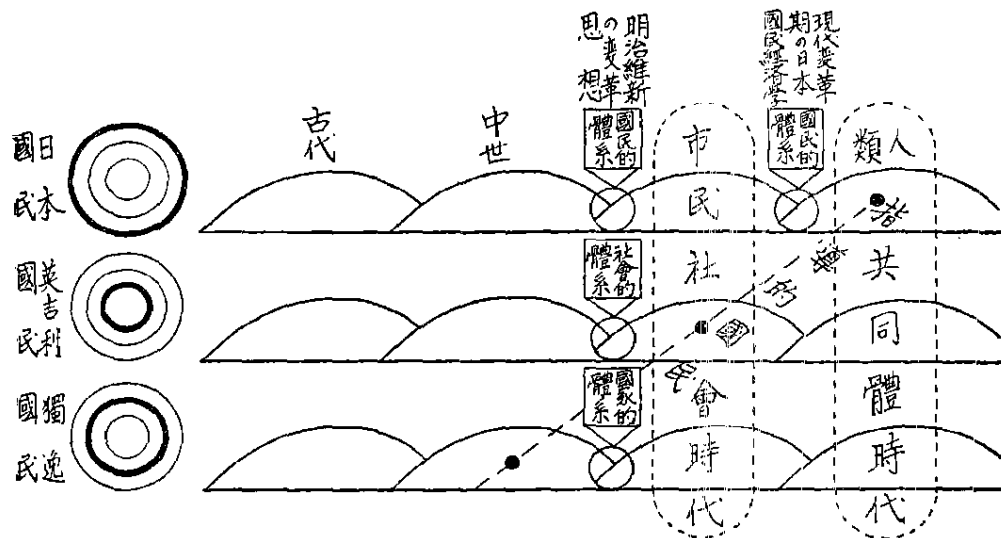
以上は現代的變革についての左翼思想と云はるゝものについて考へたのであるが、次に右翼思想と云はるゝものについて考へて見よう。即ち今日この立場は本來國家主義的國民としての獨逸と伊太利に於て最も顯著に見られるところのものであるが、それはマルギンズムと反對に國民の特殊性を高調し、他國民に對し自國民の優越性を高調し武斷的態度を以て臨む。從つて戦争が何時勃發するやも知れざる非時常的狀態に國民を置くことによつて國民に對して國家意志に絶對に服従すべきことを要求する。而して國防の充實を第一となしその巨大なる財政的支出は國民生活に對する壓迫を加速度的に増大し行くこととなるのである。即ち國民生活の爲めの經濟には、一定の限度があるのであるが、戦争の爲めの經濟は、國際間の無限なる國防充實競争により無限に増大し行き、その止まることを知らないのである。この立場に於ける經濟學が今日の國家主義的經濟學である。要するにこの

1) 秦彦三郎著『隣邦ロシヤ』參照  
2) このことについては別に詳論する。

立場に於ては富國強兵の爲めに國民を國家の手段視し經濟も戰爭もこの爲めに考へることとなる。かくの如き國家主義的な仕方は、封建社會の無自覺なる民衆にとつては可能であつたが、市民社會を通過することによつて今や自覺的となる今日の國民にとつては、極めて短期間の非常時を除きては、實行不可能に陥るのである。かくてこの立場も結局國民生活の充實を第一とする立場に、實踐を通じて修正されざるを得ないこととなるのである。

かくて來るべき時代の原理は、内に向つて國民的生命を重じ成員の總てをして人間たらしむると共にまた外に向つて他の國民的生命を重んじ、その各々の國民的個性を遺憾なく盡さしめる人類共同體を將來することとでなければならぬのである。かくて新な時代の原理は、市民社會の時代的原理が人々に外的な自由を與へることであつたと異り、人間を人間たらしむる本質的自由を與へ、總ての人々をして人間として發展完成せしむることである。而してこの最も具體的な人類の理想は今や市民社會時代を遁して齎らされたる物的生産力の著しき増大と人類の自覺の著しき進歩とによつて今日はじめて人類の實踐的努力の目的とされるに至つたのである。

然らばこの人類的目的を實現するが爲めに、指導的地位に立つところの世界史的國民は何れの國民であるか。凡そ一つの時代を指導する國民は、その時代の原理をその國民的性格として最も豊に有するところの國民である。即ち中世に於ては、國內に於て國家意志が支配的であると共に國際間に於ても一國が他の諸國に對して意志的支配的關係に於て臨むところの人類國家が實現される。かくの如き時代に於て支配的地位に立つものは意志的國家主義的國民でなければならない。これを歴史上の事實について見れば、神聖ローマ帝國に於ける獨逸民族がそうであつた。また社會本位の市民社會時代に於ては、國內に於て人間相互の社會的關係が高まると共に、國際間に於ては國民相互の社會的關係が支配的となる。即ち平等的なる國民相互の間に於ては對等なる交換關係が成



立つと共に、不平等なる國民間に於ては強者の弱者に對する搾取關係が種々なる形に於て成立つのである。今この人類的存在を人類社會と呼ぶならば、この人類社會の實現に指導的地位に立ちこの社會の最高の支配に立つものは云ふまでもなく、それ自身に於て最も社會的性格に富むところの國民でなければならぬ。かくて中世より現代の市民社會への變革の指導的地位に立ち今日の人類社會を支配して居るものは英國國民である。

然らば、内に國民共同體を具體的に實現し外に國民相互の共同體的關係としての人類共同體を實現する爲めの現代の變革期に於ける指導的國民はそれ自身共同體的原理を最も豊に有するところの國民でなければならぬ。而して今日有力なる國民にして共同體的原理を國民として最も豊に有するものは、既に述べたところより明なるが如く、日本國民である。こゝに日本國民の現代變革期に於ける世界史的使命があるのである。即ち來るべき時代の原理は天下一人も處を得ざるものなからしむことを期する我國國民共同體的精神の世界史的擴充である。而してこれを經濟について云へば、國民共同體

經濟と共にその相互の共同體的關係としての人類共同體經濟を實現することである。而してこの實現に役立つ經濟學が、現代變革期に於ける指導的經濟學であつて、これが現代日本に於て成立せしめなければならぬところの現代變革期に於ける國民經濟學なのである。

即ち中世より現代の市民社會に至るべき變革期を指導せるアダム・スミスの經濟學は、この變革期に於ける指導的國民としての英國に於て成立したのであるが、今日の英國國民は彼が支配的地位に立つて居る現代の市民社會時代を保持することに關心を有するのである。故に英國は市民社會經濟學の母國ではあつたが、來るべき時代を指導すべき經濟學の母國たることは出來ない。また今日の獨逸に成立し得べき經濟學は、シュパン等の經濟學に見るが如く、國家主義の經濟學としてそれはむしろ中世的復古的意義を有するものであつて共同體時代への變革期に於ける指導的經濟學たることは出來ない<sup>1)</sup>。かくて現代の變革期に對する指導的な經濟學は、現代の變革期に於ける指導的國民としての日本國民に於て成立しなければならぬのである。

而もこれが爲めには、今日我國に於て往々見られるところの日本的な特殊的獨善的態度が戒めなければならぬ。既に述べしが如く大改化新に於ける變革思想は唐の國家主義思想を共同體思想に攝取し以て國民共同體を成立せしめたのである。また明治維新の變革體系は、歐米の個人主義的民主主義思想を我國國民共同體的思想に攝取し以て我國國民共同體を保全したのである。我國國民共同體的原理を世界史的に擴充せしめんとするところの今日の變革體系は、明治維新に於けるが如き廣く「智識を世界に求め」る態度を以て、これに役立つべき一切の思想を廣く諸外國より取り入れることによつてはじめて十分に確立し得られるのである。

1) 今日の獨逸は恰も Führer 指導者を將軍とし國民社會主義黨を封建武士團として國民生活の全面に封建的制度を實現しつつある。